

カーライフの“万が一”をしっかりと記録

ドライブレコーダー



もろコミ ご契約のおクルマに **無料サービス**

「私は、一日266円で

(※)

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※ボーナス月加算あり

カーコンビニ倶楽部 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19 大滝ビル
☎0120-0120-55



林 成治 Seiji Hayashi
 出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
 1981年4月:プロミス株式会社入社
 2008年4月:同社執行役員就任
 2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
 2008年10月:同社代表取締役就任
 2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
 2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
 2011年1月:同社取締役退任
 2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任

急激に販売台数を増やし、一方でセダンや小型車などの乗用車の販売が頭打ちになるといふことである。

世界的に見ても、今後も続くと思われる原油安で、低燃費を売りにする乗用車の魅力が薄れ、電気自動車への急激な普及に伴い、トヨタや日産やホンダは、相当なスピードでの市場対応が迫られている。

中国の最大eコマースサイトを持つアリババがホンダと提携を発表した。車の機能は、空間を移動する目的から、さらに決済を伴ったショッピングカートへと移行している。確かに、よく考えてみると、車が移動するとガソリンや高速代に始まり、目的地でのショッピングや宿泊など、必ず消費が伴うものだ。

カーコンビニ倶楽部では、現在も「もろコミキャンペーン」を展開し、新しい顧客の開拓をしている最中だが、やがて「もろコミ」で車を購入したお客様も自動運転で決済付きの車に乗り換えることになるのだと思う。

2018年が幕を開けた。私は今イタリアでこの原稿を書いているのだが、イタリアというとフェラーリ、フィアット、アルファ・ロメオなど、かつては自動車先進国であった。しかし、一部の車を除いては、車の総販売台数や個々の車の評価も日本車の世界的な評価には及ばない。そして、後10年もすれば、自動車王国は間違いなく中国になり、2016年末で1億9400万台だった保有台数も5億台を超え、10億台という膨大な数字になることが予測されている。おそらく、2025年前後にアメリカを抜いて、世界最大の自動車王国になるのは必至だ。

年明け早々、日本の自動車メーカーの収益源である米国市場に異変が起きている。原油安の影響で、2017年は、SUV(多目的スポーツ車)やライトトラックの販売比率が全体の60%を超えた。一方で、日本勢が得意なセダンなど、中小型車などの販売数が激減。アメリカの車市場全体も、大型車やこれらの多目的スポーツ車の増産、といった見直しを急がされている。

アメリカの景気は、トランプ景気もあって堅調だが、自動車市場ではここ数年の過剰な販売競争もあり、割安な中古車が出回り、新車需要を圧迫するような構図になっている。さらには、FRB(米国の中央銀行に相当する機関)の出口戦略の一つである金利の引き締め方向もあり、新車の販売台数は、伸び悩む可能性が高い。大ざっぱに言うと、バスやトラックやSUVが

『今年も変わる自動車市場』